

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ合同研究会
第42回 議事録

1 日 時 平成24年12月15日(土) 11:00~12:45

2 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)

3 参加者 20名

うち 新規参加者 1名
玉置路子 (奈良市立佐保小学校教諭)
本学学生 6名
本学事務局 3名

4 内 容

(1) 資料の確認及び解説(前回研究会内容の振り返りを兼ねて、善野代表から)

- ・ 生駒市立壺分幼稚園(平成23・24年度市教委指定研究園)実践発表資料
「キッズあきランドに行ったよ」・「接続期のカリキュラム(年長1月~小学1年6月)」

(2)情報交換

- ・ 岐阜県関市立下有知小学校 大山夏生教頭による発表(関市教頭会での研修資料から)
[発表テーマ]「学校経営を支える教育環境整備~地域連携・PTA連携・保小中連携を通して~」
[概要]地域の老人会と小学校との交流をベースに、イチゴ狩り体験、いも掘り体験を通じた幼稚園・保育園との連携の実践を発表。活動の概要や管理職として果たした役割等について説明。

(3) 善野代表によるミニ講演

- 大山教頭の発表から学ぶ幼小接続をとらえ直す視点
 - ・ 家庭教育への働きかけへのチャンスの場という視点からの幼小接続のとらえ直し
 - ・ 悪しき慣習、よき伝統という視点での幼小接続のとらえ直し
 - ・ 防災教育への高まりを背景とした生涯学習の視点からの幼小接続のとらえ直し
- 「幼児教育から小学校以降の教育へ」の意味の再確認
 - ・ 交流・連携・接続の視点を踏まえた幼児教育、初等教育、中等教育、高等教育の相互の位置付けを確認することが大切である。
 - ・ 「就学までに子に身につけさせたいのは」(2012/10/25朝日新聞記事から)
①あひさつができる ②あきらめずに挑戦できる ③人の話を最後まで聞ける態度(ベネッセ調査による)・・・小学校で学ぶための基本的な力として保護者がとらえている実態が読み取れる。
- 幼小連携の位置付け
 - ・ 「生きる力」の育成という教育の大命題を踏まえ、目的・目標・内容・方法の構図の中で、幼小連携を方法として認識することが大切である。
- 八尾市立東山本幼稚園の取組の紹介から幼小接続として学べること
 - ・ 小学校以降の教育を意識した環境の工夫
掲示物の工夫・・・時計、ロンドンオリンピックの日本のメダル獲得数
製作物の工夫・・・玉子パックの利用(数の合成・分解の観点から)
生活と学びの一致の成果が出ている子どもの姿
リボン結び→給食エプロン後ろ結び、トイレスリッパの整理→整然とした靴箱への入れ方

(4) ワークショップ(今回は2グループに分かれて)

- ① ワークショップの意図及び方法について説明(善野代表)
 - ・ 「一日体験入学(幼小共通案)」(2012善野代表作成)をもとに、「鑑賞型から企画・運営型」

の交流の実現を目指して、①主な学習活動、②幼児への援助と見取り、③児童への支援や指導・評価の3観点から、検討のためのグループ討議を行った。

〈参考〉案による一日体験入学の主な流れ

幼児・5年生ペアによる体育館での遊び → (片付け) → トイレたんけん → 自分の名前を伝えてあいさつ → ランドセルを背負う → 学用品を机の中に入れかばんをロッカーに入れる → 鉛筆を使ったプリントへの書き込み → 教科コーナー(国語・算数・音楽)での学びの体験 → 絵本・折り紙・指相撲・腕相撲などの遊び → (片付け) → 1年生からのプレゼント → あいさつ・見送り→振り返って書く(1年生)

② 各グループでの討議内容の報告

- ・「体育館という空間でどのような遊びができるのか」、「遊びの内容は幼稚園での遊びか、小学校ならではの遊びか」などの疑問から、幼小の教員共通の認識として、遊びが一日体験入学以降も発展していくことを願い、遊びの条件として「幼児の不安を取り除く」「小学校(小学生)にあこがれを抱ける」ことが大切であると相互理解した。
- ・小学校のトイレやスリッパはサイズが幼稚園とは異なるため、園児全員が体験することが大切である。
- ・幼稚園児と小学生とのペアを設定することは大切である。5年生は4月から最高学年となり、自覚が生まれる。
- ・ペア設定に際しては、事前の配慮をすることが大切であり、実態の綿密な交換が大切との意見が出されたが、複数の園から一日体験入学に参加してくれる実態からは時間的にも無理があるとの意見も出された。ランドセルは小学生のシンボリック的存在であり、実態に教科書・ノート等を入れて重さを体感することが大切である。ランドセルの重さは、園児にとって1年生になりきるという意識がもて実感できるという重要な意味がある。
- ・勉強するという意識は、机を前にして椅子に座って鉛筆を持って書くという動作や作業から始まる。幼稚園側の教員意識としては園児に最もさせたい体験メニューである。
- ・幼稚園生活では、園児は書いたものにマルをつけてもらう体験がない。この花マルをつけてもらう体験は、幼小の学校文化の大きな違いの象徴でもあるのではないだろうか。
- ・5年生とペアを組む必然性として、最高学年としての自覚を育む意図があることと、日頃から相互に交流してしないと不安である。
- ・自分の名前を伝えることができる力を意識して、きちんと伝える場を設定したい。
- ・ランドセルを背負うことは、体験入学のメニューとして価値があると考えられる。また、鉛筆をもつ活動は、園児の「勉強したい」「字を書きたい」という願望の最たるものであり、体験メニューにはぜひ計画に取り入れたい。
- ・小学校としては、体験のやりっ放しにならないように子どもの意見を吸い上げていくための学習活動を必ず計画に位置付けたい。
- ・園児から筆箱(キャラクター的な図案の筆記具が入っている等)や鉛筆の持ち方を見られるという意識は、小学生にとって普段の生活や学習の仕方を見直すきっかけとなり、教師にとっても生活指導場面となった。
- ・一緒に遊ぶ体験は、触れ合って遊ぶことが第一義的な目的であり、無理してその場限りの遊びをする必要はない。遊びの目的として互いの心をほぐしていくということを大切にしたい。
- ・1年生からのプレゼントは、単に物として見るだけではなく、1年生からのメッセージとして受け取ることが大切である。

(5) まとめ（善野代表）

○本日のワークショップから得られたこと、次回の計画

「一日体験入学案」をもとに、それぞれの場面について、グループごとに具体的事例を想定して意見を出し合うことで、様々な幼小連携での注目点や留意点が見えてくる。また、幼稚園と隣接して小学校があるという立地条件だけでは幼小連携はできない。子どもの育ちが見られる幼小接続でないといけない。

本日の研究会だけではまだまだ検討し切れていない内容があり、来年1月の合同研究会も引き続き、今回同様の検討の場を設けていく予定である。

(6) 参加学生の感想

- ・特に花マルの話が印象的でした。幼小接続の話し合いから様々な気づきを得られたし、考えさせられることも多かったです。話を聞かせていただく立場での研究会参加でしたが、来年は、現職保育者として、話す立場で参加したいし、それまでに自分として話す力を鍛えたいと思います。
- ・楽しかったです。幼児と小学生の交流は年長と六年生のイメージがありましたが、五年生との交流だと翌年最上級生になるための自覚が芽生えますし、年長の子たちは昨年会ったお兄さんお姉さんとまた会えるという点でも良いのだと分かりました。普段参加できてないのでわからないことだらけですが、これだけは、わかりました。
ありがとうございました。
- ・幼小接続WG合同研究会に参加させて頂き、ありがとうございました。
参加させて頂くと、話を聴くだけになってしまい、なかなか自分の意見を伝えることは難しいですが、普段関わることが出来ない小学校、幼稚園、保育園の先生方と接することが出来、自分の知識となるだけでなく、自分の意識も高めることが出来るので参加させて頂き、良かったと思います。
このことを最後の挨拶で述べるべきだったように思いますが、お話しする機会を下さり、ありがとうございました。
- ・今回、最初から出席させて頂いたので、たくさんの学びを得ることが出来ました。
「ペアになって挨拶を交わす」ということは、伝え合う力を養い、ランドセルにノート、筆記具を入れて重みを知り、その中身を机の中に片付け、ランドセルもロッカーへ片付ける。
また、机に向かって鉛筆をもって書いたものを見せ、花〇をもらうなどの体験をすることで、小学校へのあこがれをもつことが出来るなど、学習活動のひとつひとつに意味があることを学びました。
そして、幼稚園では”評価”というものはなく、小学校では”〇”をもらったり”花〇”をもらったりして評価というものがあることに気付かせて頂きました。
園児と一年生の交流活動のなかで園児自身が成長した自分に気付けるようにしていくことが大切で、そうすることで入学への期待感が出来ていくことを学びました。
最後に「感想を・・・」とおっしゃられたときは、やはりドキドキしてしまいました。
克服できるように頑張ります！ありがとうございました。

5 次回の予定

平成25年1月19日（土） 11：00～12：30

（毎月定例は、第3土曜 11：00～12：30）